

令和元年度 甲府市食育推進計画検討委員会 議事録

1 日 時 令和2年2月14日（金） 午後6：30～8：30
場 所 甲府市健康支援センター2号館 2階 大会議室

2 出席委員（50音順）

青木委員、隈部委員、須田委員、田草川委員、武井委員、玉川委員、内藤委員
服部委員、早川委員、深沢委員、藤井委員、藤澤委員、古屋委員、松谷委員（14名）

3 欠席委員

井上委員、小林委員

4 議 題

- （1）第3次甲府市食育推進計画 事業の推進状況について
- （2）第3次甲府市食育推進計画 「重点的な取組」について
- （3）その他

5 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者定員 5名
傍聴者数 0名

6 議事の要旨

議題（1）第3次甲府市食育推進計画 事業の推進状況について

議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

A 委員

子ども（おやこ）食育推進事業の参加者の意識が高いとのことですが、もう少し詳しく教えていただきたいです。

事務局

こちらの事業につきましては、食生活改善推進員の皆様に各地区で展開していただいているところですが、自ら応募し、参加いただけている親子の皆様が多いなかでは、食に興味がある方に参加をしていただいているのではないかと考えております。

一方、幼稚園に出向いて保護者参観等で、教室を開催していただいている地区もございます。このような取組が各園・学校と連携し、広がっていければと考えております。

B 委員

細かいところをみれば、多々、問題もあったかと思いますが、今までは、待っていたものが、出向くということが言葉の端々に出ていて、高い評価を受けてもよいと思います。

アンケート実施については、経費削減の面からペーパーレスを、母集団の偏りを防ぐ観点からも WEB 上のアンケート方式を検討してもらいたいです。

また、そろそろ医療統計を加えていかないと、取り組んできた方向が、誤った方向に結論付けられてしまう可能性があるので、こちらも検討していただきたいです。

事務局

今いただいたご意見を貴重な意見を受け止めさせていただきながら、検討をさせていただきますと思います。

議長

他にはいかがでしょうか。

A 委員

健診についてですが、特定健診ではなく、甲府市における39歳以下の方を対象とした健診の受診率の向上、健康意識の向上とありますが、対象者の把握も含めて、受診を勧める方法について、どのようにされているのかうかがいたいです。

また、資料2「ふう」の低栄養傾向（BMI 20以下）ですが、平成30年度の低栄養傾向のBMI 20以下が23%というのは全年齢なのか高齢者なのか。県民調査では、75歳以上の方が29%なのですが、この23%はどの年齢層になりますか。

事務局

1点目の基本健診ですが、19歳から39歳までの方で、勤務先等で健康診断の機会がない方を対象にしています。ホームページ・甲府市民健康ガイド等で周知を図っているところです。2点目の目標値 低栄養傾向（BMI 20以下）ですが、年齢層は、65歳以上の方の健診受診者の中から出しております。

A 委員

もう少し年齢があがってくると、低栄養傾向の方が多くなり、また、一人暮らしの方や要介護状態の方が増えており、我々もより訪問栄養食事指導を進めようとしています。高齢者の低栄養、やせすぎの方を対象として、ターゲットを絞った対策をたてることも大切なことだと思いますので、今後も、このようなデータを注視しながら見守っていただきたいと思います。

今年度、私も、食生活改善推進員さんと一緒に活動させていただきました。幼稚園での

食育活動や地域での高齢者食育元気会など、いろいろな事業に食推さん（食生活改善推進員）が関わっていて、以前では考えられなかったという申し訳ないが、食推さんが自ら、相手に伝わりやすく説明をされていました。幼稚園では豆はこびゲームなどを行いながら、食に関心を持ってもらっており、ある地区では民生委員さんとタイアップして70人から80人の高齢者を集めていただいております、「パ・タ・カ・ラ」の実施など、非常に充実した関わりが行われていました。第3次食育推進計画の内容が、食推さんにも浸透していくことが見え、うれしく思います。

議題（2）第3次甲府市食育推進計画 重点的な取組について

議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

C 委員

食生活改善推進員会では、母体となる日本食生活協会から、事業は始める前には、体重計を持っているかの確認を必ずするようと言われております。今回、こちらでも、体重については大切だとお聞きしましたので、これからは、事業のはじめに、体重計をもっているかの確認を取り入れていきたいと思っておりました。

議長

他にはいかがでしょうか。

B 委員

乳幼児健診と離乳食教室を担当する栄養士さんは何人なののでしょうか。
また、実際に離乳食の献立を検討している場というのがありますか。

事務局

主に担当している職員は1名ですが、離乳食教室は、2名で対応をしております。献立の検討は、毎年ではないですが、離乳食のガイドライン等が改正されるところで検討を行っています。参加者の声や国の指針に鑑み、検討の機会を増やしていきたいと思っております。

B 委員

それでは、お願いなのですが、この委員会の有識者の先生方に離乳食健教室の献立を検討する場に加わっていただくことはできないでしょうか。もっと幅広い知識があつていいと思います。離乳食教室という名称も、たとえば、「手抜き離乳食」「もっと気楽に離乳食」など、くいつきやすく負担の少ないネーミングにしてはどうでしょうか。保護者

がどうしてもこうしなければならないという気持ちにならないよう、有識者の先生方からの意見を取り入れて、検討していただきたいです。食べることは生きることなので、離乳期にお母さんたちがつまずくと、その後の食事が心配になります。

それから、中高生の塾に通っている子どもたちは、夜の10時、11時に帰宅することがあります。このような生活習慣の子どもたちに、食についての発信がされていません。中高生は、スポーツも行っています。コーチからの、食についての支援はあまりありません。小学校からスポ少は盛んです。早朝に遠征に行く子どもたちに、何時にどのような食事をとればいいのか、試合の合間の食事等、食の発信の機会を設けて、欲しい情報を得られる場所にしてもらいたいと思います。

事務局

離乳食教室の献立を決める際には、みなさんのお知恵をいただきながら考えてまいりたいと思います。気軽に参加していただけるようなシステムを、保健センターだけではなく、地域にある幼児教育支援センターでも教室が開催されるので、人をひきつけるようなテーマを行いながら多くの方に参加していただけるようにと思います。

B 委員

ラジオやテレビなどで事前に事業 PR することはできませんか。保護者の方に事前に PR する方法を、子育て支援アプリ「すくすくメモリーズ」の活用も含め検討し、知らないお母さんがいないようにしていただきたいです。

議長

3か月の健診時に、教室の PR チラシをお渡ししていても、その時には、ピンとこないということもあるのではないかと思います。

D 委員

私も、本計画にずっと携わらせていただいて、抽象的な表現から、第3次は具体的になり、甲府市独自の視点での展開などがあり素晴らしいと思いました。我々の意見を理解していただき取り組んでいただけることに感謝したい。食に関しては、口の健康を守って健康づくりに役立てたいと思っています。それには、食の問題が非常に重要であります。保健所長から、保健所設置における地域医療の展望についてお話をお聞きしたことがあります。甲府市民の生活習慣の課題は、主に「食」に関わることです。甲府市は、健康宣言しているなかで、これからをどのようにアプローチしていくべきかでしょうか。その時々でいろいろな話題が出てきます。

今は、フレイル予防などの話題がありますが、70歳になって急に目標を「やせないで太りましょう」とすることは難しいのではないのでしょうか。ハイリスクアプローチとして、BMI 20以下の人たちをいい栄養状態にもっていくことも重要だと思いますが、今ま

では、BMI 25未満を目標としてポピュレーションアプローチをしていました。ある、データでは、BMI 25よりすこし上の方が、どちらかというと、死亡率が低いとあり、日本人の場合は、目標は、そのようにしたほうがいいのではないかとのことでした。今の啓発では、目標がBMI 25のままです。これは一般的な基準なのでしょうか。

議長

こちらは、厚生労働省が示す、「日本人の食事摂取基準」をあてはめております。確かにBMI 25以上のほうが高齢者の場合は、死亡率が低いといわれていますが、一方で生活習慣病の観点から考えると、BMI 24.9までに抑えておいた方がいいというのが、国の見解です。

D 委員

我々の今までの取組からわかったことは、栄養学的に必要なものを食べるという食習慣は長い間、癒しと結びついて脳との関係でつくられるものということです。食に関心がない方を変えることの難しさを考えると、小さいころから食を楽しむとか、健康づくりの重要な側面を理解するようなアプローチをしていくことが重要ではないでしょうか。

そのような中、今回の計画では、「味覚教育」が位置付けられました。この事業を、実践することは大変です。幼稚園も忙しく、小学校はより忙しく、展開が難しいため、現在は放課後児童クラブで展開しています。取組の理解が広まり、希望されるところが増えてきていますが、マンパワーが足りないのが現状です。

現在は、歯科衛生士を中心に活動していますが、今年度は、食推さんに協力していただき、事業を展開していきたいと思っています。

また、食品ロスに関してですが、家庭での問題と外食の問題があると思います。今は、宴会で「20・10運動」が推進されていますが、食べすぎを考えると、課題があると思います。ドギーバックで自分の責任で持ち帰る事は悪いことではないと思います。食品ロスを推進していくのであれば、これからは具体的に何をやっていくのか議論しなくてはならないと思います。

事務局

味覚教育につきましては、歯科医師会の皆様や食生活改善推進員の皆様とも連携を図りながら取組みを進めてまいりたいと思います。また、食品ロスにつきましては、環境部等と連携を図りながら健康の観点からも、考えてまいりたいと思います。食品衛生の問題も大きいのかと思いますので、今後の課題として検討を進めてまいりたいと思います。

議長

食品ロスの問題も大変大きいと思いますが、先ほどの話のように、衛生ということが一番問題になるかと思います。また、提供の課題として、食事の量的問題や組み合わせ問

題も一方では検討していく必要があります。いわゆる、食環境ですが、食環境の整備を考えていくこともひとつあるのではないかと考えるところです。

他にご意見ありますでしょうか。

E 委員

出前講座で講師をしております。その中で、継続的に声をかけてくださる方もいるため、お腹にいた頃から、離乳食、幼児食、そしてアレルギー食の相談と子どもさんの成長に合わせて、継続的にかかわらせていただくことがあります。

減塩を推進している料理の講座の時に、スポ少をしているお子さんをお持ちの保護者の方には、お弁当にするには、補食にするにはどうしたらいいかをお伝えしています。机上やレッスンだけではなく、質疑応答をすることによって、実践につながっています。

ある方は、鉄欠乏性貧血で相談場所がわからなかったが、個別の相談をすることで、翌年は、改善していたケースもありました。出前講座では、相談が非常に多いです。

出前講座という制度が、甲府市にあることによって、甲府市産の野菜や果物のおいしさを普及することから始めた教室が、病態の栄養相談やスポーツ栄養、男性の料理、高齢者のフレイル予防の教室にもなっています。訪問介護で調理をしている方との勉強会では、私も勉強しながら、地域にフィードバックできたと思います。また、こういう場でも勉強させていただいています。

議長

出前講座の募集というのは、どういうところで募集しているのでしょうか。

事務局

教育委員会の生涯学習課で募集している講座でございます。

議長

ありがとうございます。活動されていることがよくわかりました。

他にいかがでしょうか。

F 委員

以前から、環境を改善した方がいいのではないかとお話をさせていただいておりました。例えば、正しい食生活などが、わかって直ぐに実行できる方もいる一方、先ほどのお話のように、そこまでなかなかたどり着けなく、もう少し工夫が必要な場合もあります。今は、いろいろな課題が生まれています。今日お集まりの委員の皆様、それぞれの分野で、それぞれ多くの取組をなさり、ずいぶん環境が変わってきたのだと感じました。

甲府市は、10月に健康都市宣言をいたしまして、5つの項目に分けて、展望をお示し

させていただきました。

本計画では、ライフステージごとに表記していますが、これは、あくまでも「今」を切り取っています。今、乳幼児期の子どもたちが、次に学齢期になる時に、どのようにアプローチすれば、健康課題が改善していくのか、切り替えて考えてみてください。それぞれの分野で、今、どこを変えていけば、次のライフステージの健康課題が減っていくのかという視点で考えていただけると、今取り組むべきことが見えてくるのかと思います。

G 委員

小さい頃からの食育、継続することが大切です。どのような家庭であっても、その子自身に知識や考えが身につけば、将来、活かしていけるのではないのでしょうか。先ほどより、お話が出ていますが、食べることは、生きることですから、基本がなければ、夢の実現はないので、大切だと考えています。学校では、がん教育を実施しております。その中でも、減塩やジュースの砂糖量などの食の話もあり、子どもたちが大変興味を持っていました。教師による、食の教育も行っておりますが、専門の方から話を伺うことは、子どもたちに新鮮で、大切だと思っています。

学校が必要と思っていること、保健所が発信したいことを、具体的に話し合うところから必要だと思います。

E 委員

先ほども、意識が高いという話がでましたが、確かにその通りで、子どもの食事に関しても、きちんとしようという意識を持たれている方が多いです。

その一方、子どもから同級生のお友だちの話を聞くと、毎回、遠足にお弁当を持ってこられないお子さんがいらっしゃいます。理由を尋ねると、毎回お母さんがいつも入院しているということなのです。実際に、そういうお子さんがいるということに、衝撃をうけています。

親の考えはまちまちです。子どもの考えはいくらでも変えられるけれども、親はなかなか難しいという話を、よく聞きます。子ども食堂の運営者の話も、現実に、自分の子どもと同じ世代の子の話で、本当に心が痛みます。しかし、聞いている方々は、きちんと取り組んでいる方なのです。ここでの計画や考えが素晴らしいと思う反面、広く浸透させていくには、どのようにしていけばいいものかと、もどかしく思います。

F 委員

できる人は、できていて、維持期にあります。できていない方の生活習慣が改善しなにかぎり、課題も解決されないと考えますので、皆さんのお知恵をお借りし、事業が推進していけばいいのではないかと考えております。

D 委員

今までの取組は、わかっている人だけが来てくれて、わかってくれない方は、なかなか来てくれません。完璧は求めることはできませんが、子どもに教えることで、子どもが親に伝えてくれているので、子どもを教育し、親を変えていく手段がベストなのではないかと思います。長い目でみると、子どもの頃から教育していくことが、将来の健康に効果的であると思います。

学校現場に栄養教諭の先生もいらっしゃいますが、栄養教諭の先生だけでは、忙しく、また、学校現場も忙しいのが現状です。年に1度だけ、取組んだとしても、参加者を変えることが難しいので、定期的に刺激を与えていくのが必要です。

地産地消についても、そのおいしさがわからなければ、大切にしようという思いは、子どもたちに培われません。基本的なところをとらえて事業展開していかなければならないと思います。

A 委員

栄養教諭の話がでましたが、学校では月曜日から金曜日まで毎日給食の時間があり、毎日食に関わっています。栄養教諭は、子どもたちに栄養教育をする役割があります。しかし、山梨県は栄養教諭の配置が少ないのが現状です。

議長

他にいかがでしょうか。

B 委員

それぞれの分野で感じている課題が今出ましたが、継続的に取り組んでいくためには、メーリングリストやSNSを用いて、情報共有を検討してもらいたいです。

また、「長」のつく人が全てをかかわっているわけではないので、その下で素晴らしい考えをもっている人、理解のある人を見つけ探す努力もしてもらいたいです。

H 委員

専門的な先生のお話とは異なりますが、昨年、お魚料理教室や親子見学を企画しました。出前講師の話をお聞き、そのようなことを事前にわかっていたら、積極的に取り入れたのにと思いました。情報提供、ネット化することは良いと思いました。

I 委員

小瀬の山城直売所に来るお客様が、減少しています。直売所のまわりには、新築の家も増え、人口が増えているため、きちんと案内ができていないのではないかと考えています。近くの山城小学校の児童の見学の時にも、山梨県のよい食材、食育の情報発信をしていけたらと思います。

J 委員

食育の取組は、毎朝きている食材などを子どもたちと一緒に考えてみたりすることで、食に関心をもってもらっています。食材の産地も子どもたちに伝え、職員と一緒においしい給食をいただきます。夕方になると、「今日はこんなものを食べたよ」と親に伝えている子もいます。一方、子どもは話したいが、忙しさのあまり子どもの話を聞かない方もいます。保護者ひとりひとりに子どもの話を聞く耳をもってもらえるといいなと感じます。食を通じて、親子の話が膨れ上がっていく場面を大切にいただければと感じています。

K 委員

積極的に教室に参加される方はいいのですが、参加しない人がどんどん増えている事が不安で、懸念されます。すごい勢いで、働く母親が増えています。オリンピック後、不景気になるともっと増えていくのではないかと思います。1歳で入園を希望する子どもが増えていますが、食どころではないという方が、予想以上に増えています。10か月後から、子どもをお預かりするとき、アレルギーの確認として、何を食べているかお聞きすると、食べていない食材が多すぎて驚くことがあります。経験していない食材は、園では提供できないため、苦慮しています。生活が重視され、食事の内容ではなく、とにかく食べさせることが一番になってしまう保護者の方が増えてしまうことが懸念されます。

保育所も幼稚園も必死で食育を行っています。家庭でできないことをカバーするために、一生懸命取り組んでいます。感染症、誤飲等の問題もあり、怖さと裏腹です。食育に取り組む職員は、楽しくとともに、とにかく安全にと思っています。小規模保育や外注で給食を提供しているところの衛生管理についても心配しているところです。

実は、発達が気になる子が増えています。まだまだ研究段階で、結論があるものではないですが、これにも、母体、父体の食生活が少なからず関係しているのではないかという学説もあります。そのため、食の安全性については、中学生頃から、伝えていなくてはいけないのではないかと気になっているところです。

A 委員

たばこ受動喫煙も発達に影響を及ぼします。

L 委員

皆様が、お話していることが全てですが、病院に勤務していた時に感じていたことは、しっかり管理できる家の子どもは再入院していませんでした。

母体の栄養・健康状態も本当に大切だと感じます。小さい頃から、その子たちのわかりやすい言葉で伝えていくのがとても大切だと思っています。中学校になると難しい

ことも理解できるので、話す場を地道に続けていくしかないと考えています。そして、親になる出産に最も近い、高校生にもアプローチの場があるといいなと思います。いろいろな場所で多くの方がとてもいい活動をされているのが、効果的に表れる方法を考えてけたらいいなと感じます。

議長

ありがとうございました。

届けたいと思う方に、なかなか届かないという課題は、いつもあるように思います。

議題(3) その他

議長

ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

非常に長い時間、多くのご意見をいただき、ありがとうございました。

また、次に向けて、課題もたくさんある一方で、みなさんとつながりを持って、さらに食育が進んでいくことが見えてきたように感じられます。

以上もちまして、議事を終了させていただきます。

以 上